

平成 29 年度 第 1 回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 会議録

会議の概要

開催日時	平成 29 年 5 月 26 日（金）13 時 30 分から 15 時まで	
開催場所	多摩区役所 11 階 1101 会議室	
出席者の氏名	委員	<p>青木義明（多摩区食生活改善推進員連絡協議会）</p> <p>菅野麻美（太陽の園地域包括支援センター）</p> <p>有北いくこ（多摩区子ども総合支援連携会議）</p> <p>中村健（多摩区医師会）</p> <p>大津努（稲田地区社会福祉協議会）</p> <p>初田温子（区民委員）</p> <p>岡本次郎（多摩区老人クラブ連合会）</p> <p>古谷欣治（多摩区町会連合会、中野島地区社会福祉協議会）</p> <p>和秀俊（田園調布学園大学講師）</p> <p>森本千恵美（区民委員）</p> <p>川澄晶子（多摩区社会福祉協議会地域課）</p> <p>山口正芳（区民委員）</p> <p>木澤静雄（登戸地区社会福祉協議会）</p> <p>吉田稔（多摩区商店街連合会）</p>
	事務局	<p>石本孝弘（区長）</p> <p>伊藤昭義（地域振興課長）</p> <p>稲葉信彦（副区長）</p> <p>竹田和也（保険年金課長）</p> <p>齋藤俊啓（福祉事務所長）</p> <p>津田淳（生田出張所地域振興担当係長）</p> <p>塚本和秀（保健所多摩支所長）</p> <p>菅原久雄（道路公園センター管理課長）</p> <p>鈴木宣子（地域支援担当課長）</p> <p>山下信也（健康福祉局地域福祉課）</p> <p>池上洋未（地区支援担当係長）</p> <p>齋藤祐希（同）</p> <p>曾我利江（同）</p> <p>太山和枝（地域みまもり支援センター担当部長・地域ケア推進担当課長）</p> <p>正木久美子（地域サポート担当係長）</p> <p>石垣秀之（地域みまもり支援センター地域ケア推進担当係長）</p> <p>久保田文夫（児童家庭課長）</p> <p>加藤秀隆（地域みまもり支援センター地域ケア推進担当）</p> <p>山口孝子（高齢・障害課長）</p> <p>今川明（同）</p> <p>増田素子（保護第 1 課長）</p> <p>川辺千織（衛生課長）</p> <p>安藤奈穂子（保育所等地域連携課長）</p> <p>石塚秀和（総務課長）</p> <p>岩上雅博（企画課長）</p>
	欠席委員	<p>石井信子（多摩区民生委員児童委員協議会）</p> <p>小松英光（学校地域連携課長）</p> <p>江口勇次（生田地区社会福祉協議会）</p> <p>田中勝彦（生涯学習支援課長）</p> <p>大澤敏夫（菅地区社会福祉協議会）</p> <p>田中仁志（危機管理担当課長）</p> <p>白石大樹（自立支援協議会）</p> <p>豊村和弘（区民課長）</p> <p>原田知治（多摩区社会福祉協議会）</p>

議 事	<p>(1) 平成 29 年度多摩区地域包括ケアシステムの推進に向けた取組について (資料 4)</p> <p>(2) 地域福祉計画の策定について</p> <p>①地域福祉計画の位置づけ・スケジュール等について (資料 5、6)</p> <p>②第 4 期の振り返りについて (資料 7、参考資料Ⅲ)</p> <p>③第 5 期の基本理念 (案) の検討について (多摩区の課題について意見交換) (資料 8～11)</p> <p>④平成 29 年度の取り組みについて (第 4 期) (資料 12)</p> <p>(3) その他 (多摩区在宅療養を推進する活動「チーム・たま」 案内)</p>
傍聴人の数	0 名
配付資料	<p>会次第</p> <p>資料 1 座席表</p> <p>資料 2 委員名簿</p> <p>資料 3 多摩区支え合いのまちづくり推進会議運営要綱</p> <p>資料 4 平成 29 年度地域包括ケアシステムの取組について</p> <p>資料 5 第 5 期多摩区地域福祉計画策定について</p> <p>資料 6 平成 29 年度第 5 期多摩区地域福祉計画策定スケジュール</p> <p>資料 7 第 4 期計画の振り返り</p> <p>資料 8 基本理念の設定について</p> <p>資料 9 多摩区の現状 (統計情報、地区の概況、多摩区将来人口推計、地域別高齢化の状況)</p> <p>資料 10 過去の多摩区地域福祉計画の基本理念と基本目標及び行動目標</p> <p>資料 11 各区第 4 期地域福祉計画の理念・基本目標・方針について</p> <p>資料 12 第 4 期多摩区地域福祉計画 (主要な取組) 事業シート</p> <p>参考資料Ⅰ 平成 28 年度第 4 回川崎市地域福祉調査 結果概要 多摩区版</p> <p>参考資料Ⅱ 川崎市地域福祉計画策定指針</p> <p>参考資料Ⅲ 第 4 期多摩区地域福祉計画 冊子</p> <p>○多摩区在宅療養を推進する活動 チーム・たま</p>

## 議事要旨

発言者	発言要旨
事務局 (太山部長)	<p>第1回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 開会の挨拶。 会議録のための録音設置、傍聴者等の説明。</p>
石本区長	<p>本市では平成27年3月に川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョンを策定し、子どもから高齢者までの全ての市民に対して川崎らしい都市型の地域包括ケアシステムの構築を進めている。</p> <p>皆様もご存じのとおり、先月24日に川崎市の人口は150万人を突破した。自然増加が続いていることと併せて、平成9年からは社会増加も続いている状況がその要因として挙げられている。他の政令都市と比べても、人口は第7位でありながら自然増加は第1位である。また、15歳から64歳までの生産年齢人口の比率は67.7%と政令市の中で一番高く、逆に65歳以上の高齢人口は19.5%と政令市の中で一番低いという状況であり、若くて活力のある都市だと言える。</p> <p>しかしながら150万人の約2割が高齢者であり、これからさらに少子高齢化が進展してくるだろう。多摩区内においては高齢化率が30%を超える地域も既に出ている。また、昨日公表した川崎市の人口推計によると2030年に158万7,000人という人口ピークを迎え、その後は人口減少が始まると予想されている。特に多摩区は7区の中では一番早く、2020年にピークを迎えると想定されている。</p> <p>今後は市民の皆様方には積極的かつ主体的に地域のさまざまな課題に取り組んでいただきたい。お互いに支え合う仕組みづくりがさらに重要になってくるので、そういった仕組みづくりをサポートしコーディネートする役割をわれわれ行政側は担っていると考えている。</p> <p>昨年の4月に地域みまもり支援センターを設置し、保健師だけではなく各専門分野の職員を配置して体制を強化している。昨年度は中野島地区と生田地区でモデル事業を実施し、地域包括ケアシステムの推進に向けた取り組みを進めている。</p> <p>先ほどもご紹介があったように、今年度はより一層進めるために区役所の全課長が今回の会議に出席し、地域での活動や行政の取り組みなどについて幅広く情報を収集し意見交換することで連携を図っていきたいと考えている。今年度は社会福祉計画改定の年でもあり、多摩区の地域特性に応じた、またはその課題を踏まえたより良い計画にしたいと考えているので、委員の皆様方にはより活発なご議論をお願いしたい。</p> <p>多摩区としても区民の方々が安心・安全に住み続けられるまちづくりを一生懸命に進めたいと考えているので、委員の皆様方にも引き続きご理解とご協力をお願いしたい。本日はよろしくをお願いしたい。</p>

発言者	発言要旨
事務局 (太山部長)	改選委員（ご退任した柴原先生より推薦いただいた和先生）の紹介。
和委員	ご紹介いただいた田園調布学園大学の和である。よろしくお願ひしたい。多摩区東生田の生田緑地のすぐそばに住んで10年になる。今回このような委員を仰せつかり、住んでいる多摩区の仕事ができることをとてもうれしく思っている。まだ至らない点が多々あるが、よろしくお願ひしたい。
事務局 (太山部長)	続いて、座長選出に入りたい。この会議は懇談会という位置づけになっているので、市の規定により委員長および副委員長は定めないことになっているが、円滑な議事運営のために委員の中から座長を選出していただきたい。自薦・他薦は問わないので、本日の座長としてどなたかいかがか。
中村委員	今まで田園調布学園大学の柴原先生にやっていたので、今回も学識経験者の和先生に引き受けていただきたいと思うがいかがか。 (一同承認)
事務局 (太山部長)	お引き受けいただけるか。ありがとうございます。それでは和委員に座長をお願ひしたい。 資料確認。
和座長	議事（1）平成29年度多摩区地域包括ケアシステムの推進に向けた取組について、事務局から説明をお願ひする。
事務局 (今川)	資料4 平成29年度地域包括ケアシステムの取組についてに基づいて説明。
和座長	議事（1）についてご意見・ご質問等あるか。
有北委員	今年度は菅、中野島、登戸、稲田、生田の5地区で取り組むという話であった。私は菅地区に住んでいて、子育て支援のNPOの仕事の他に民生委員にも昨年の12月に就任した。菅は一町会で人口が4万3,135人で町会加入世帯は9,000世帯と聞いているので、全員が町会に加入しているわけではないことになる。そうすると町会を中心にこの事業を展開していくと、どうしても漏れてしまう住民が出てくる。おそらく3分の1以上が漏れると思うが、そのような方に対してはどのような展開を考えているのか。 もちろん町会も大事な活動であるが、むしろ民生委員のほうが町会に加入していない方に対してもいろいろな働きかけをしてきめ細かくやっていると思う。民生委員も含めて地域づくりをしていくほうが効率的なのではないかと思うがいかがか。
事務局 (太山部長)	貴重なご意見をありがとうございます。確かに町会の加入率は問題になっており、私たちも町会だけに働きかけていけばよいとは決して思っていない。ただ、地域に入っていくに当たっては、まずは長年にわたり地域のことを熟知している町会長にヒアリングすることで、行政がつかんでいない地域情報等を教えていただこうと思っている。そこから地域での取り組みのキーパーソンを紹介していただいて、そちらにもヒアリングをしてい

発言者	発言要旨
	<p>きたい。</p> <p>多摩区は5つのエリアの地区社協に分かれていて、それぞれの地区の特徴があると思う。実際にすぐに町会と一緒に何かを動かすということではなく、手を取って一緒に進めるべきことがあれば、町会だけではなく民生委員や一事業所、ボランティア団体等から地域の状況やニーズを聞かせていただいて、地域の方たちと一緒にまちについて語ることからスタートしたい。</p> <p>実は今年のモデルのかりがね台地区では若い世代の意見を聞く場がないということで、夏祭りの会場に出向いていき、このまちの良いところや課題をいくつかヒアリングしたことを書き出してシール投票をした。このようにまちの特徴に合わせて、いろいろなかたちで幅広く住民のご意見や声を聞いていく必要があると思っている。</p>
本澤委員	<p>先ほど民生委員を窓口でという話が出た。私は民生委員になって13年目であるが、1人で200所帯以上を持って動いているし、社協などの活動もあるので、正直言って民生委員ができることは限られてくる。町会等でも私がお話ししていることだが、まちづくりにおいて民生委員が中心になるのは無理だと思うし、町会が前面に立って活動するべきだろう。やるのが嫌だと言っているわけではないが、民生委員は高齢の方が多くフットワークが悪くなっているし、手一杯になっていることをご理解いただきたい。</p>
有北委員	<p>私は民生委員が中心にということをしたのではなく、町会だけではなく民生委員や他の活動をなさっている方にもきちんと働きかけたらいかかということだ。</p>
事務局 (太山部長)	<p>町会にも民生委員にも日々いろいろなことを請け負っていただいて、地域の福祉づくりやまちづくりにご尽力いただいていることは重々承知している。私たちも地域に入っていくと地域包括ケアの話をする、「これ以上何をやらせようというのか」と構えられることもある。</p> <p>ただそうは言っても町会や民生委員、社協の方を抜きにして私たちが地域のことをやることはできないので、町の課題に取り組む時には「自分のまちのことだから何かしなければいけない」という人材をどうやって掘り起こしていくかを一緒に考えていただきたい。まちの人にそういう気持ちになっていただくために、語る会あるいはワークショップなどのいろいろな地域活動の場面にお邪魔してそういった話をさせていただいている。お忙しい方にこれ以上何かをとすることは全然考えていないし、これからの高齢化社会において一人でも多くの方に自分のこととして今から取り組んでいくべきだと考えていただきたい。</p> <p>最初は自助としてご自分の健康づくりから入っていき、毎回出ているうちに来なくなった仲間を気にして家に訪ねていったり、友だちが連れ合い</p>

発言者	発言要旨
	<p>を亡くして元気がない時には自分の活動に誘ったり、そういうことが立派な互助につながっていると思うし、そういう方たちと一緒に増やしていきたいと思っている。そのような場面のキーパーソンもご紹介していただけたらうれしい。決して民生委員に負担をかけるつもりはないので、ご理解をお願いしたい。</p>
和座長	<p>議事（２）地域福祉計画の策定について①地域福祉計画の位置づけ・スケジュール等について、②第４期の振り返りについて、③第５期の基本理念（案）の検討について（多摩区の課題について意見交換）、まとめて事務局から説明をお願いする。</p>
事務局 （加藤）	<p>議事（２）地域福祉計画の策定について①地域福祉計画の位置づけ・スケジュール等について、 資料５ 第５期多摩区地域福祉計画策定について 資料６ 平成２９年度第５期多摩区地域福祉計画策定スケジュール ②第４期の振り返りについて、 資料７ 第４期計画の振り返り Ⅲ 第４期多摩区地域福祉計画 冊子 ③第５期の基本理念（案）の検討について（多摩区の課題について意見交換）、 資料８ 基本理念の設定について 資料９ 多摩区の現状（統計情報、地区の概況、多摩区将来人口推計、地域別高齢化の状況） 資料１０ 過去の多摩区地域福祉計画の基本理念と基本目標及び行動目標 資料１１ 各区第４期地域福祉計画の理念・基本目標・方針についてに基づいて説明。</p>
和座長	<p>本日の議題の中心となる③第５期の基本理念（案）の検討である。お手元の資料８によると第５期基本理念は「多様な主体と多世代がつながる支え合いのまち多摩区」となっていて、よくある感じもするけれどもよく盛り込まれていると思う。</p> <p>これは案なので、地域課題を整理しながらこの基本理念について検討することが最終目標となる。それに向けて、これから１４時５０分までの３０分間、各地区でいろいろな特徴があるのでその地域課題と皆様方のご意見をお聞きしたい。先ほど山口委員の発言を遮って失礼したので、山口委員からご意見をいただきたい。</p>
山口委員	<p>先ほどお話ししようと思ったのだが、ワークショップを５、６回やって地域課題も出してきたが、それ以降全然進んでいない。まずは地域課題を解決しなければいけないと思う。</p> <p>例えばモデル地区で坂が多いという問題が出たが、それをどうすべきかという案が出てこなかった。しかし、何とかしようということで、ベンチ</p>

発言者	発言要旨
	<p>を作る案が出て、一部では行っている。</p> <p>今後は、課題を解決するためには誰がどのように作るのか、お金をどこから出すのかということまで、一步進めた話に持って行っていただきたい。</p>
和座長	<p>はからずも私が各地区の課題をまず整理するところからと言ったが、課題の整理だけでは駄目だと言っていたきありがとうございます。地域福祉とはまず課題を整理して、その課題を解決して皆さんの幸せを実現することなので、山口委員がおっしゃるとおりだと思う。いろいろな課題を解決した先にこの基本理念を目指すことになる。</p> <p>先ほど事務局からスケジュールの説明があったが、今日はこの基本理念をまず整理し、次回・次々回にそれを具体的にどう実現していくか、課題をどう解決していくかというご指摘のあった部分に入っていきたい。本日は基本理念をテーマとした全体について、できる限り自由に質問や意見をお願いしたいがいかがか。今日の説明についての素朴な疑問でも構わない。</p> <p>今まではモデル地区として中野島地区と生田地区で進んでいるが、今後は新たに菅地区、登戸地区、稲田地区が加わる。今日の配布資料9の地区の概況にもあるように、皆様方がお住まいの地区をあらためて思い起こしていただくと、各地区で社会資源、地理・地形などの特徴がある。おそらく地区ごとに課題はさまざまであり、特にその地区にある社会資源によって解決方法は変わってくると思う。それについてご意見やご感想はないか。</p> <p>皆様方は地域で活躍なさっているので、具体的に取組まれているところから見えてくる地区・地域の課題があると思う。その辺りからご意見をいただけるとありがたいがいかがか。</p>
有北委員	<p>資料8の裏の下側の「平成28年度多摩区民意識アンケート調査」の②を読むと、まさにそのとおりだと常々感じている。</p> <p>私は子育て支援の活動を25年間してきたが、いまだに自分以外の世代のことには関心がない状況があると感じている。今回の基本理念の「多様な主体と多世代がつながる支え合いのまち多摩区」は本当に理想型だと思うが、②からこの理想型に行くまでにどれだけの道のりがあるのかと感じた。</p>
和座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>理念とは理想や夢に近いものでよいと思う。なぜ地域育成が必要なのかというと、課題を解決していだけで終わってしまうと何を目的でやっているのかということになるからだ。そのときに目指すものは「こういう多摩区になってほしい」という魅力や夢に向けたものであり、そのために課題を解決し、その夢に向かって皆で協力していくという流れがよいと思う。</p> <p>「夢じゃないのか」と言われるようなこの基本理念をもう一度見ていただいて、皆様方がいろいろなかたちで関わっている活動から見て「これは時期尚早ではないか」「これはいける」といったご意見をいただきたい。</p>

発言者	発言要旨
森本委員	<p>理念の考え方や理念という言葉の取り方について、夢や理想ももちろんだが、根本として大切にすべきもの、「このようにありたい」と進めていくための大本を考えるべきではないか。既に決められている「人と人のつながりや交流といった地域共生社会を重視した理念」が含まれるような理念を考えるということではないか。</p> <p>「理念」とは国語辞典で調べてもおそらくそうだと思うが、一番大切にすべきのものであり、夢やその先にあるものとして理解しているがそれでよいのか。基本理念とは一番大事な運営主体の目指すべきものであり、揺らがないものとして固定すべきものだと考えるので、もう少し具体化してほしい。どれもがばらばらなので、統一感があるとよい。</p>
和座長	<p>私も一委員そして座長として、森本委員からあったご質問に対し、この資料の文言の位置づけについて事務局から説明していただきたい。</p>
事務局 (石垣係長)	<p>理念については毎回の作成委員会において前回と同じような方針で行くということによって変えていない区もあるが、多摩区においては毎回変えている。川崎市では地域包括ケアシステム推進ビジョンを将来のビジョンとして打ち出していて、その理念を副題として付けることになっている。地域福祉計画もこれに沿ってやっている。</p> <p>多摩区としては川崎市が決めた地域包括ケアシステム推進ビジョンののっとなってやっていくことを考えていて、同じように「誰もが安心して暮らし続ける」というフレーズを案として考えていた。</p> <p>ただ、昨年度から地域包括ケアシステムのモデル事業等を進めるに当たって、課題解決に向けて取り組んでいく中で山口委員がおっしゃったような多世代交流がさまざまな場面で出てきた。有北委員がおっしゃったような世代間の潜在的な対立といった問題は、住みよい地域をつくる上では解消していかなければならない。そういったことから、目標理念としては多世代交流を進めて支え合う関係ができればよいということだ。</p> <p>計画の期間が終わって次の時にまた理念を考えるという話もあるが、それが確定できていないのであればまた同じ理念を使ってもいいと考えている。</p> <p>地域福祉計画は3年計画ではあるが、地域包括ケアシステム推進ビジョンは平成30年度から37年度までとなっている。事務局側としては地域福祉計画についても推進ビジョンの方向性を見据えて、あくまでも第5期の理念としてこういった理念を提起している。地域包括ケアシステムの目標である平成37年度(2025年度)を見据えて、多世代交流が進んで世代間の格差・対立が解消していくような多摩区になればよいという思いを込めて、こういった理念を提案させていただいた。</p>
和座長	<p>ありがとうございます。森本委員からのご質問にあったのは、今回の基本理念の位置づけはどういうものかということだ。私は理想や夢等のこうありたいものとして今回の第5期の基本理念を皆さんと語り合うのだと思</p>



発言者	発言要旨
	<p>ったのだが、もう少し固いものが理念なのではないかというご質問であった。事務局サイドとして基本理念はどの程度のものを求めているのかをお聞きしたかった。</p>
<p><b>中村委員</b></p>	<p>私もテーマやキャッチコピーは大好きだが、行政がやっているものは年度が替わると必ず違うテーマになってしまう。私事で申し訳ないがそこに貼ってある「チーム・たま」の公開講座では、「穏やかな最期を迎えるために～終の住処、あなたなら何処に～」をメインテーマとし、その度々で1つのテーマを作っていて、今回は「あなたに『かかりつけ医』いますか」である。</p> <p>自分も多摩区に2年前から住民票を移しているが、多摩区が大好きである。店も何もないが、何となく多摩区の風が好きである。</p> <p>「子どもは夢を見ることができて、大人は夢を実現することができる」という誰かの言葉があった。私は医師会にいて「医療と介護と行政の絆があるまち・多摩」と自負しているし、子どもたちが「住んでいて良かった」と思えるような、そして多摩区で幸せに看取っていただけるようなまちをつくりたいと思い、多職種の人と組みながらやっている。</p> <p>先ほど民生委員の話にもあったように個人の力は本当に微々たるものだが、多職種の人たち、自治会を含めた地域のいろいろな人たちが何人も集まって手を組んでいくと大きな力になると思う。自分たちの仕事に対して自分たちだけではなく、隣と一緒にできればもっと大きくいろいろなことができると思っている。</p> <p>理想・理念という言葉は大好きで、それがないとそれに向かって動いていけないような気がしている。質問に対する答えではないかもしれないが、私の意見である。</p>
<p><b>和座長</b></p>	<p>残り時間が少しになったが、理念についていかがか。</p>
<p><b>青木委員</b></p>	<p>私はこの委員になって4年目である。当初、同じようなことを言ったことがあるが、こういったメンバーで具体的なことをやれと言われてもおそらく無理ではないか。資料8にあるような問題についてはほとんどの方々が思っていることだ。これを具体的にどれが重要で、どこからやるのか、誰が中心となるのかについては、このメンバーだけではなかなか進められないと思う。</p> <p>例えば1番目に書かれている近所との交流が必要ということについて、民生委員が中心となるのか、他の人が中心となるのか。これにはお金も人もかかるだろう。民生委員と簡単に言うが、地域との結びつきには過去の歴史があるので地域の人は取り組みにくい。具体的にやってくれるグループあるいは人がいるのだろうか。</p> <p>具体的にやるべきこと、やりたいことが多すぎるので、最初は重点的なものに絞って、その後下ろしていくほうが進むのではないか。ここで議</p>

発言者	発言要旨
	論しても理想論や質問が出るだけであり、現状把握ができて問題が多すぎるので、山口委員が言ったように具体的には進まないだろう。議題を絞るか、あるいは優先順位を付けるべきだ。
和座長	<p>本当にそのとおりだと思う。私は他の自治体地域の計画に関わらせていただいているが、そこでは検討部会を立ち上げている。今おっしゃったような具体的なところを部会で検討し、さらにその下にワーキンググループを作ることで具体的に誰がどのようにやっていくかまで進めていける。</p> <p>今年度のスケジュールを見ていただいたように、今年度に関してはアウトラインについてである。たくさんの課題がある中で、第5期でどこに絞っていくかが大事だと思う。たくさんの楕円形の課題の中で、事務局側から示していただいたポイントが「多様な主体」と「多世代」に絞られたということだ。</p> <p>「多様性」がキーワードになっている気がするので、第5期はそれで進めていいのかといったご意見を残り10分でいただきたいがいかがか。</p>
初田委員	「つながる」や「支え合いのまち」は分かるけれども、「多様な主体」が分かりにくいので、イメージできる言葉を入れたらよいと思う。
大津委員	皆さんは現実に子どもの時から「多様な主体」の中にいる。子ども会、青年団、老人クラブ等いろいろな場面で地域ごとに何かやっているのではないか。我々の所でも子ども会の運動会には、年寄りも大人も中学生も入っている。お祭りもその一つである。このように世代を越えて、自分の背負っている背番号を越えて日々交流していけばよいのではないか。
事務局 (太山部長)	<p>このアンケート調査の結果において自分に関係ない世代に対する関心が低いことについて、先ほど有北委員からもまさにそのとおりだというご意見があった。確かに現実にそういうところもあると思うが、それは地域の中で日々の交流がなく、出会う機会すらないために関心が持てないのではないか。</p> <p>大津委員がおっしゃったように地域の中にいろいろな団体という主体があり、それらが交わることで子育て世代はシニア世代に「かわいいわね」「頑張ってるのね」と声を掛けられるだけで少しほっと安心できる。また、シニア世代で子育てサロンやこんにちは赤ちゃん、読み聞かせボランティア等で活動している人はお母さん方から喜んでもらえたり、子どもの成長を目の当たりにすることで自分が元気をもらえたり、これらの活動を続けるために健康づくりに頑張ることで非常に生き生きとしている人をたくさん見ている。</p> <p>この実態調査からは近所との交流の少なさ等の課題がたくさん出てきているが、キーワードとしての「多様な主体」が「多世代」とつながって支え合っていくことで2025年問題も怖くないのではないか。事務局としては、多摩区地域福祉計画の目指すべき姿、夢として「こんな多摩区になるとい</p>

発言者	発言要旨
	<p>いな」という共有すべきところを、このような言葉で基本理念の案として提示させていただいた。</p> <p>この会議で何か解決策を出していくということではなく、区としての地域福祉計画の理念を皆さんに決めていただきたいし、これを実施していくのは皆さんがお住まいの地域単位だと思う。先ほど課題だけ出していたのでは駄目だと山口委員がおっしゃった通りだと思うので、それをこれからどのように具体化していくか、地域で誰が担っていくのか、どうすれば無理なく進めていけるのか。地域の一人ひとりに自分が主役であり、自分のまちのこととして考えていただく必要があり、行政は黒子として支援していきたいと思っている。</p>
和座長	残り時間も少なくなってきたが、他にいかがか。
森本委員	<p>太山みまもりセンター担当部長の話聞いて、先ほどの自分の質問に整合性が出てきたと思う。多摩区として「多様な主体」はとても大切であるということと、多世代を越えた支え合い・つながりのある多摩区を目指したいということとともに、根本としてそれを大切にしていきたいという理解であれば、言葉は少し難しいかもしれないがとても良いと思う。区として川崎市のビジョンにも沿っていかなければならないこともよく理解できる。そういうことであれば、この理念に賛成である。</p>
初田委員	大津委員と太山部長のご説明を伺って、私もこの理念の言葉でいいと思った。賛成である。
吉田委員	<p>多摩区商店街連合会本部の吉田である。参加は今回が初めてである。</p> <p>事務局には1年間かかってさまざまなものを出していただいた。この名簿を見ても分かるように、ここに集まっているメンバーにはそれぞれの専門性がある。私は地方経済であるが、それぞれの専門分野を生かし、事務局がそれをフォローして話し合うことで良い方向に持っていけば何も怖いことはなく、それが一番の解決方法だと思う。</p>
和座長	<p>大変貴重で建設的なご意見をありがとうございます。そのようにできたら本当にいいと思っている。</p> <p>他にはいかがか。では、この基本理念はやや抽象的ではあるが、数名の委員の方々から良いのではないかということだったので、よろしければ拍手をいただきたいがいかがか。</p> <p>(一同承認)</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>学識者として、まとめをさせていただきたい。</p> <p>各委員から多摩区にこれだけ課題があるので、それを一気に解決するのは無理だという意見があり、それはそのとおりだと思う。しかし今回の基本理念で素敵だと思ったのは「多様な主体で多世代が」ということだ。分野ごとでは解決できない多くの抱えている課題を、いろいろな世代あるい</p>

発言者	発言要旨
	<p>は分野の人たちが一緒に交流しながら解決を図っていくという方向で第5期はやっていくのだということがとても感じられる。</p> <p>また、私はいろいろな地域でワークショップをしているが、福祉のワークショップではどうしても「このまちの課題は何か」ということから入る。そしてこの解決すべき課題から入るとマイナスから入ることになるので、どうしても「この地域は大変だよな」となり、どうにか解決策を出してもそれから一步を踏み出せない。だから私はプラスから始まってプラスで終わるというワークショップをしている。</p> <p>まずはじめに、この地域の魅力は何か、良いところは何かを考えていただく。その後に、この良い地域の困り事は何かを聞く。その困り事に対して皆さんはまず何ができるのかを聞くのが3つ目で、最後に「将来、こういうまちになったらいいな」ということを皆で考えていくように持っていく。そうすると、無理なく「じゃあ、できるかな」と一步を踏み出しやすくなる。</p> <p>この会議が第1回として今日から始まり、「こうなったらいいよね」という基本理念が見えた。この1年間、プラスから始まりプラスで終わるような流れの中で皆様方と検討と議論をし、決めることはしっかり決めていきたい。以上である。</p>
事務局 (加藤)	④平成29年度の取り組みについて（第4期）について、資料12 第4期多摩区地域福祉計画（主要な取組）事業シートに基づいて説明。
和座長	議事（3）その他について、何かあるか。
中村委員	多摩区在宅療養を推進する活動「チーム・たま」案内に基づいて市民公開講座の説明。
和座長	<p>中村委員、ありがとうございます。ぜひご参加いただきたい。</p> <p>以上で議事は終了する。拙い進行で大変失礼した。</p> <p>それでは、進行を事務局へお渡しする。</p>
事務局 (太山)	<p>和座長、議事の進行をありがとうございました。お疲れさまでした。皆さんからもいろいろご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>土台づくりを昨年からはスタートしたところだが、モデルとなった生田地区では、先ほど和座長がおっしゃったような「このまちの魅力は何か」というワークショップから始まった。まずは山坂が多いが景色は良いという話から始まり、一休みするためのベンチを置いたら知らない者同士で話が弾むのではないかとということで、坂が多いというマイナスをプラスに考えた取り組みが始まった。</p> <p>まずは予算を取って何かを買うということではなく、自分の家の椅子を自分の家の前に置いたらはたしてどんな人が座るのかと試しに置いてみたら、実際に座っておしゃべりしている姿を見て、横の連携で中野島地区で</p>

発言者	発言要旨
	<p>余っているベンチを町会長がもらって来て2カ所に設置された。今後はどういう方向でやるかについては、また進めていくところである。</p> <p>その地域でまちの面白い活動をしている人を紹介してほしいと言ったところ、おみこしの活動をしている「祭楽」という所の10代の青年たちも何人かワークショップに参加してくれた。10代から70代までの方に集まっていただいて、このまちの魅力や「こうなったらよいね」「そのために何ができるか」という話をしたところ、10代の子たちが、山坂が多いまちなので雪が降ったら僕たちに言ってくれれば雪かきをすと言ってくださった。そこから何か困り事があったときの目安箱の取り組みが始まった。</p> <p>住民目線で自分たちができるところからということで、少しずつではあるが広がってきている活動がある。今年度はその良さをいろいろな地域に広げていきたいと思っているが、やっていただくのは地域の一人一人の皆さんだと思う。そういった情報を伝えつつ、皆さんからもその町々のさまざまな課題を教えていただくところから進めていきたい。</p> <p>2回目の会議においても皆さんから活発なご意見をいただいて、多摩区らしい地域福祉計画ができればと思っているので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>閉会にあたり、齋藤福祉事務所長からごあいさつ申し上げます。</p>
齋藤所長	<p>活発なご議論をありがとうございました。</p> <p>今年度は地域福祉計画策定の年次であるが、それと併せて、地域包括ケアシステムを両輪として推進していかなければならない。この会議を進めていくので引き続きご意見等を賜りたい。本日はどうもありがとうございました。</p>
事務局 (太山)	<p>ありがとうございました。</p> <p>以上をもって、閉会とする。</p> <p>次回の会議は7月を予定。</p>
	閉会

以上